

## 国会請願署名の取り組み 一採択をめざして

～ 3043 筆の署名にご協力ありがとうございました ～

2021 年、2022 年の 2 年間をかけて、「一人ひとりの声を国と自治体に届けよう」という取り組みと、「学童保育（放課後児童健全育成事業）の拡充を求めろ」国会請願署名を行ってきました。

趣旨や内容を理解してもらいながら、全国で 10 万筆を目標に取り組み、2022 年 5 月初旬の段階で 10 万筆を超える署名を集めることができました。三重県からは 6 月 3 日時点で 3069 筆の署名が集まりました。

コロナ禍で保護者会や行事も行われないなか、署名を集めるのは大変だったと思います。

また、国会請願ということでは、学童保育の役割を理解してもらいながら、今回の請願署名の趣旨を理解しううえで、紹介議員を増やすことも取り組みの一つでした。

田村憲久・衆議院議員（三重 1 区）、中川正春・衆議院議員（三重 2 区）に紹介議員になっていただきました。（3 受領）

## 総会に向けて

拡大役員会にて、活動方針について会長が説明を行いました。特に質問は出ませんでしたので、準備を進めていきます。

書面決議にて実施します。総会までのスケジュールは次のとおりです。

6 月 中旬 総会資料発送予定

6 月 30 日（木）書面表決書提出締め切り

## 第 47 回全国学童保育指導員学校（西日本・岐阜会場）2022 年 6 月 5 日（日）オンライン

全体講演：『コロナ時代と子どもの願い 一あたりまえだけ大切なこと…』

講師：春日井敏之先生（立命館大学大学院学際研究科 教職大学院）

午後の講座：基礎講座 3 講座、理論講座 2 講座、実践講座 3 講座、特別講座 1 講座

三重県連協として、基礎講座 3、実践講座 7、特別講座 9 の運営を担当し、準備を進めています。

（三重県内から 148 名参加予定）

## 現任者研修について

県は、昨年に引き続き、子育て支援員研修の放課後児童コースを行う予定です。6 科目 9 時間の研修で、支援員資格認定研修よりも短い時間で受講できます。県連協として望んでいるような実務者の研修ではないので、望む研修をしてもらえないように今後とも働きかけていきます。

## 「放課後児童支援員等処遇改善臨時特例事業」について

「今回の処遇改善事業」は、2021 年 11 月 19 日の閣議決定の経路対策で示された、「看護、介護、幼児教育など、新型コロナウイルス感染症への対応と少子高齢化への対応が重なる最前線において働く方々の収入の引き上げ」に、「学童保育を加えてほしい」という全国各地の関係者の声が全国学童保育連絡協議会に集められ、国や国会議員に要請しつづけたこともあって実現しました。

しかし、交付申請の状況を見ると依然として市町村格差があります。

申請までに検討する時間が短かったり、必要書類の準備が間に合わなかったりして、未活用の所もあります。県内 29 市町の実態把握できれば、ご報告します。

「従うべき基準」に関連してのことかどうかまでわかりませんが、行政から 3 年分の出勤簿の提出要請があったこと他両県から報告されています

## 第 34 回三重県学童保育研究会 2022 年 2 月 27 日（日）オンライン

「遊びが育むものへのまなざしを」 講師：代田盛一郎先生（大阪健康福祉短期大学）  
ZOOM ウェビナーにて開催。アンケート集約の講義の満足度は、大変満足と満足を含めて 92%。  
感想：コロナ禍で閉塞感もあったので我儘するしかないと思っていたが、先生の話を聞いて、できることがあると気づかされた。大変なのはみんな同じ。

先にある楽しみを語りあって、帰ってくる子どもたちを笑顔で迎えたい。

今後の研修内容の希望：コロナ禍における子どもたちの心理的影響

ウィスコロナのなかの学童保育の生活や活動

（参加申し込み人数 302 名）

## 【今後の予定】

6 月 14 日（火）役員会⑨（2021 年度最終）

7 月 5 日（火）役員会① 信任不信任を確認します。

7 月 10 日（日）小運営委員会（全国学童保育指導員学校西日本会場の担当者会議）

## 読むサプリ 『日本の学童ほいく』

## 5 月号

☆ 特集 子ども育での仲間と共に 一学童保育の保護者会・父母会

P27～ 保護者会・父母会の役割、大切さをあらためてたしかめたいでしょう

保護者会は、「子どもへの願いや思いを交流する」場であり、「子どもの様子を共有する」「子どもにとってよい環境をつくるために力をあわせる」などの大切な役割を担っています。

コロナ禍のほか、保護者会や行事もなかなかできない状況にあると思いますが、「できぬ」とあきらめるのではなく、「どうしたらやりたいこと・したいことかできるのか」を、保護者や子どもたちと共に考えることが大事だと感じました。

☆ 掲載者 P37 こどもランド 3 月号のクイズ当選者 宮口 優羽（三重県）

## 6 月号

☆ 特集 子どもをまんやかに 一学童保育指導員の連携・協力・学びあい

P21～ 大人が互いの良さを知り、高めあう学童保育

一指導員同士の連携と協力の意味と方法

松浦 淳（青森中央短期大学）

指導員の仕事で「連携」と言った時に、大人同士の情報共有が主な内容。なんのための連携か、意識し、伝えあわないと形骸化しやすい。連携が形骸化する」ということ。連携が形骸化すると、表面上は連携していても、充実感や目的に近く手づかえが得られない。それでも表面上は連携しているのだから、一応連携は回りの、日々は流れていく。その結果、「連携」に対してはモヤモヤした思いが生まれる。」とはじめに書かれています。

また、「連携」の定義を 4 つの要素に分けて、丁寧に書いていただいています。

経緯話の一環上の段も合わせて読んでみると、松浦先生の投げかけはとも大事なことであり、指導員自身が「連携」の意味を改めて考えさせたいと思ったと思います。

☆ 掲載者 P37 こどもランド 4 月号のクイズ当選者 さくやまひろ（三重県）

『日本の学童ほいく』は、学童保育唯一の専門機関誌です。読んで学童保育のことを理解してもらい、仲間を増やす一つの手立てとして活用していきたいと考えています。

県内の 6 月号の購読数は 1339 冊。目標の 1500 冊には少し届いていませんが、各地域でほいく誌を購読

することに丁寧に取り組んでいただいていることがわかります。

引き続き、ほいく誌の良さを伝え、学童保育のことを知ってもらう機会を増やしていきたいです。

# みえ県連協ニュース

三重県学童保育連絡協議会  
津市下舟舩町津興1 350  
059-226-6260  
専用携帯電話080-2651-5711

2021年 第6 5月号

第4回拡大役員会を5月24日にオンラインにて開催しました。県連協は6月から翌5月までの年度になっておりますので、今回は年度替わりの時期のため、現役員さんとあわせて、2022年度新しく役員にふられる方にも参加していただく形で行われました。すでに4月から新年度になっている学童保育所や地域連協などの活動報告をしていただき、交流や意見交換を行いました。

<p>業名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業名市入要望書提出。</li> <li>・役員会誌が今年度から復活予定。(詳細はまだ決まっていない。)</li> <li>・市が1小学校域外に学童保育を移転する取り組みを進めている。(安全な場所の確保)長島北郡小学校の敷地内に学童保育所「まっぴ」が開所。これまでは学校の敷地外で運営していたが、空き教室の改修などを行い校内に移転。</li> </ul>
<p>四日市</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市連協への加入が年々減っているため、どういった活動をしたらよいか悩む。昨年度に引き続き、今年度も会費を集め、実行委員会方式で進めることが決まっている。これから活動を始めていく。</li> <li>→ 年2回の学童保育係との懇話会があったので実施したい。</li> <li>合同イベントも実施の方向。ウィズコロナで開催したい。</li> <li>・指導員の会の研修は、学童保育所研修を中心に進める。</li> <li>・市主催の行政研修4月スタート。</li> <li>市連協、指導員の会から要望を出し、学童保育係が、初任者コース(DVD受講)や中堅研修(育成支援の目標と実践)等年研修スケジュールを計画。</li> <li>・補助金は昨年と同じ。キャリアアップ処遇改善などは少し金額が上がっている。新しい補助金はないが、充実させてもらっている。</li> </ul>
<p>鈴鹿</p>	<p>&lt;鈴鹿市の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度・令和4年度処遇改善臨時特別事業費補助金についての通知             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 令和3年度実績の提出。支給日が3月31日のため、次の年度が追加。</li> <li>令和3年度分補助金は、令和3年度中に補助金を使い切ることが困難と予想されます。そのため、令和3年度分のみ特別措置として、補助金当額についてのみ、補助金口座から補助金口座へ移動することを認めます。ただし、補助金を動かす処理については、4月8日(金)までに終了してください。</li> </ul> </li> <li>・補助金の返還に係る納入通知書の通知             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 納入期限(5月18日)までに指定金融機関で納付。</li> </ul> </li> <li>・令和3年度経立金管理状況報告書の提出について             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 平成29年度に設けられた学童保育所について、管理状況を令和3年度経立金管理状況報告書に記入。期限(5月18日)までに提出。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;鈴鹿学童保育指導員の会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前に指導員の会に加入していた学童保育所例二、会長から加入案内メールを送付。その他市内の学童保育所へは子ども政策課よりメールで案内。</li> </ul>

<p>福山</p>	<p>1. 学童保育及び児童数 学童保育数 24 市連協加入数 9</p> <p>2. 市連協の主な活動や市内の状況等 定例会、指導員研修会もコロナ禍で開催できていない。書面での総会準備中。</p> <p>①市は、今後定員拡大に伴う増設を行う場合上限200万円の補助金獲得を決議。 1 学童保育所は、今年度に活用を予定し、増設(約400万円の見積もり)を行い、定員は15名から24名となる。</p> <p>②市連協の財政運営 見直しを検討中。 また役員会段階の話なので、加入学童保育所口提案し表者による協議を行いたい。</p>
<p>津</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や行事などを実施することができなかった。</li> <li>・今後の活動予定</li> <li>書面での総会準備中。各学童保育所からの要望を、役員会でまとめ、津市へ提出。</li> <li>・津市教育方針(広報「つ」参照)</li> <li>「児童の放課後の安全安心な居場所づくり」</li> <li>・南が丘地区放課後児童クラブの4つ目の施設を南が丘小学校グラウンド内に整備。</li> <li>・放課後子供教室を実施している旧厚生幼児活動施設を活用し、放課後児童クラブを設置する。</li> <li>・放課後児童クラブの運営に関し、新型コロナウイルス感染症対策や支援員確保のための支援を引き続き行うとともに、運営費補助金を増額するなど、クラブの充実に向けた取り組みを進める。</li> </ul> <p>&lt;市連協加盟状況(4月1日現在)&gt;</p> <p>20学童保育所(35支援) 新入会児童数396名・在籍児童数1531名 世帯数1210名 ※児童数などは若干減っている。(津市連協調べ)</p>
<p>松阪</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年からの活動休止状態。令和3年度は全く集まっていない。市連協加入4学童保育所。</li> <li>・各学童保育所の運営や相談が聞こえてくる。</li> <li>・研修や会議が復活できるようにしたい。</li> <li>・市が、「放課後児童クラブ育成支援体制強化事業」を活用し、運営事務等を行う職員を雇うことを取り入れる。</li> </ul>
<p>熊野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3事業所(有馬事業所、井戸事業所、金山事業所)がある。</li> <li>・入所児童数は、事業所によってニーズが違う。</li> <li>・金山事業所は定員いっぱい。(65名)夏休みの利用があれば、待機児童がでるか。5月19日市長懇話。線の会からの要望を伝える。</li> <li>市は学童保育のことをどの程度考えてくれているのか。学校から離れているので、近い方がいい。古いので新設のための補助金を要望。農業振興地域のため建物を作るにはそれを外さないといけない。</li> </ul>
<p>御浜</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年更新の指定管理制度になっており、今年度の業益選定は師範せず、みはま学童クラブの運営終了。みはま学童クラブに通所していた児童を対象に、学童保育とは別事業において受け入れを開始している。</li> </ul>

県連協は、地域から成り立っているもので、地域からの情報を寄せていただいて、また各地域に持ち帰って、活動に役立てていきたいので、ご協力をお願いいたします。